

北海道大学体育会山スキー一部山行報告書

記入者 杉田

(目的) カービング大回り (目的地) オプタテシケ山 美瑛岳

(期間) 2001.4.28 ~ 2001.5.4 行動6 停滞1 計7日

(地図) 白金温泉 オプタテシケ山 1/25000

(人員) *L* 杉田 想土 *HUSV4* 1級スキーヤー
SL 山口 達 *HUSV3* 2級スキーヤー
Fd 三浦 康 *HUSV2* エクストリームカーバー
Eq 大杉 友 *HUSV4* 筋肉スキーヤー

(装備) 共同: マキシム フライ バンブー スペア 盆 軍手 雑巾 灯油
4.2l なべ 手なべ エッセン井 エッセン Spoon お玉
ローソク2本 ラジオ2個 針金 医療 無線 修理 ノコ
水ポリ デポ旗5本

個人: GW標準 + EP プラブーツ ビーコン 長靴

(予定の行動)

1	札幌 = 白金温泉 - BC ₁
2	BC ₁ - (西尾根) - オプタテ - ベベツ - BC ₁
3	BC ₁ - G下 - オプタテ - BC ₁
4	BC ₁ - BC ₂
5	BC ₂ - 美瑛富士 - 美瑛岳 - BC ₂
6	BC ₂ - 白金温泉下山
7	停滞

(実際の行動)

4/28 快晴

札幌 (6:15) = 林道・654 分岐 (9:50-10:30) - 林道の橋 (12:45-13:25) - c1150BC₁(14:50)

札幌から快晴の中出発、絶好のドライブ日和。しばらく好天が続くようだ。帰ってくるころにはみな真っ黒だろう。

美瑛富士の登山口の方へはずっと除雪が入っている。そっちから登りたかったが、しかたなく・654に車をデポってとぼとぼと歩き出す。・681に毛と骨になった鹿と熊糞がころがっていた。一同感嘆の声をあげる。林道がおもっきり曲がる時はショートカットなどしながら進む。林道から別れて登りだすところの橋は確かにわかりづらい。予定ど

おり沢に沿って登りだすが、すぐの二股を右に入ってしまったため、微地形ばかりとなり迷走。しばらく進んだ後、東にトラバースして予定の沢 c980 ぐらいにもどった。この沢なら確かにはっきりしている。後はなんもで予定のテン場へ。タンネが濃くて眺めがよくないのがイマイチなテン場。少しだけ突撃にいった。夜、大杉の吸ったティーパックを三浦も吸ってしまったらしく、かなりショックを受けていた。

4/29 快晴

BC ₁ (3:30-5:10) - 西尾根 c1680(6:45-7:10) - S 上 (8:00-8:15) - オブタテ Peak(8:30-8:45) - S 上 (9:00-9:30) - S スキー (9:30-11:00) - S 上 (11:00-11:45) - BC ₁ (12:45)

テン場からプラブーツで登り気味にトラバる。c1550 突き上げる沢は上のほうでブッシュが出ているように見えたので c1700 に突き上げる沢を登ることにしたが、西尾根の西側はどこもブッシュが出ており、そこをトラバってを尾根の東側に入れば雪があるようなのでどちらを登ってもよかったと思う。季節風のためか、西尾根に限らずどこも尾根の西側は黒かった。沢を登りだしてしばらくして、硬いので ES (アイゼン・ストック) にする。ガシガシ登って c1680 ぐらいで休憩し、そこから尾根にのる。c1800 ぐらいからは高山植物の上を歩いていく。肩はブッシュがでていてデポ旗を打つ必要はなかった。S (スーパー) 上のコルにザックをデポって空身 EP でピークへいく。頂稜部は風が強い。ピークへは夏道、岩、雪のミックス。ピークから爆裂をのぞく。真ん中からデブリがあるが、上のほうは滑れそうだ。旭岳の第一オングルははっきりとが見える。今年は雪が少ないのだろうか。

コルに戻りいよいよスキー。まさに「大回りせずにおれるかっちゅうねん！」という感じ。すごい！すごすぎる！c1430 ぐらいまで滑る。一同大満足。登りかえしもスーパー。ステップの間隔が一人だけ違う山口がはまっていた。帰りはツボで c1700 ぐらいまで降り、そこからスキー。地味に大斜面なのだが、雪質が悪く Work 気味だった。美瑛富士北東にすでにシュプールがつけられたのが見え、ちょっと残念。テン場では焚き火をして昼寝。最高に気持ちがいい。三浦、山口は突撃へ。飯も外で食べたが、ちょっと寒かった。

4/30 快晴、ちょっとガス

BC ₁ (3:30-5:30) - G ₂ 下 (7:40-8:10) - 東の肩 (9:05-9:30) - G ₁ 下 (9:50-9:55) - G ₂ 上 c1800(10:30-10:40) - G ₂ 下 (10:50-12:10) - G ₃ 下 (12:25-12:30) - G ₃ 上 (13:25-13:40) - G ₃ 下 (14:00-14:05) - BC ₁ (14:35)

テン場から長靴ででる。硬いがフリクションで登れる。c1450 ぐらいまでいくとハイマツで尾根上は進めなくなったのでスキーにかえる。目の前の沢も地味に Big で、硬くて面白そうなので滑ろうか迷ったが、ジャイアントを早い時間に滑りたかったので、トラバりだす。・1384 とその次の沢にはでかい段差がある。二つ目はスキーを脱いで登った。トラバっていくとやがてもものすごいスロープが見え、「おー、ジャイアントすげー」とか SL が言っていたが、よく地図を見るとそれは G ではなく手前の沢であった。

とりあえず手前側のジャイアント (G₂ と勝手に命名) の下 (c1480) にザックを置き奥のさらにでかいほうのジャイアント (G₁) までトラバってから登りだす。スーパーと比べると幅がある感じがする。斜度も急。ほんともものすごいことになってる。こんなスロープがあっというのか!! わくわくしながら登る。登りもかなりジャイアント。肩まで

いって休憩。やはり上は風がある。ピークはEPがないと面倒そうなのでやめる。爆裂は真ん中細くなってからはデブリがあるが、上のほうなら十分滑れそう。しかも面白そう。ここ(東の肩)から滑りだすのが一番よいと思います。計画に入れてなかったのが残念。

で、Gスキー。上のほうはかなり急で雪もイマイチで戦うスキー。真ん中も結構斜度はあるが雪はよい。だんだん緩くなってきて下のほうは快適にカービングターン。ほんとにでかい。c1450まで滑り、今のステップを使い再びG₂の上c1750くらいまで登り、滑る。G₂もそこそこでかい。下で大休止をしていると上のほうから人が降りてきた。OBのたけのぶさん、久能さん、丸谷さん、ふるかわさん(山岳OB)とメリー(丸谷さんの犬、c500を直滑降ダッシュしてきた)であった。G₁下まで行って会う。山スキー部プロモーションビデオ?を撮影中とのこと。

再び今度は先ほどのジャイアント手前の沢に行き、登りだす。さすがにかなりゴクい。もうガス欠、三浦にアメ玉をめぐんでいただく。一番上まで登る。少しガスが出てきて、オプタテの北側、下のほうはガスっているようだ。ここは結構急な斜面が長く続く(G₁より急)。しかも時間が遅いので表面が凍りはじめ、サンクラスト状態でかなり戦うスキー。でもこれが面白い。ここは「ジャイコ(G₃)」と命名(SL案)。

で、テン場まで。帰りは早い。このころにはガスも晴れていた。また突撃へいく。東尾根側面の急斜面がなかなか面白かった。

5/1 快晴、一時ガスガス

BC ₁ (3:30-6:00) - BC ₂ 手前の沢 c1130(7:00-7:20) - c1200BC ₂ (7:35-8:10) - c1330(8:30-9:05) - BC ₂ (9:10-11:25) - 美瑛富士避難小屋(12:40-12:55) - 極道上(13:05-13:15) - 極道スキー(13:15-14:10) - 極道上(14:10-14:20) - BC ₂ (14:40)

テン場から突撃スロープを登り、c1250からトラバリだす。最初は少しガスっていたが、すぐに晴れてきた。二つ目?の水線の沢の渡渉手前で、三浦が「地図がありません、落としたみたいです。」などとのたまい、「最後に見たのは?」と聞くと「テン場。」と答えやがったので、パーティーに衝撃が走ったが、よく探させたらポケットから出てきたのでほっとした。最後の深い沢はc1150くらいで渡渉。最後少々登ってc1200にBC₂を設営。ここは美瑛富士がよく見えてなかなかよい。タンネ内。

テントをたてているときから徐々にガスってきていたが、すぐに晴れるだろうと思いかまわず出発する。するとほんとにガスガスになってしまったので天気待ちをしてラジオを聞いたが、すぐには回復しそうになかったのでテン場に帰った。

テントでうだっていたが、11時ごろから晴れてきたので再び出発。美瑛富士北東スロープはシュプールが残されていたのでやめて極道を狙うことにする。北東スロープと例の二股には段差がある。コルまでは地味に遠い。避難小屋は結構最近できたようで、一階建ての小さなプレハブ(確か「スーパーハウス」と書いてあった)。冬は埋まってしまわないのだろうか?

極道は途中からきれいなフラットバーンとなる。斜度も手ごろ、スーパーぐらい。調子に乗って大回りで飛ばしていたLがはでに転んで顔をすりむく。Mにずっと注意していたのに自分が転んでしまうとは情けない。c1350くらいまで滑る。登り返しは山口がトップでステップをきったのだが、歩幅が長く全く使えない。結局大杉がもうひとつステップをきった。

石垣大斜面は雪がなくぜんぜんつまんなそう。トリウマは上のほうが細くすじ状になっ

ていてあんまり面白そうではなかったが、下のほうまで長そうだった。

コルから帰りは早かった。L 以外はテン場から下へ突撃。

5/2 快晴

BC₂(3:30-5:15) - 美瑛富士避難小屋 (6:00-6:15) - ・1716 コル (6:45-7:00) - 美瑛岳 Peak 直下 (8:00-8:55) - ・1716 コル (9:50-10:05) - 美瑛富士 Peak(10:30-10:55) - 美瑛富士北東スロープ上 (11:05-11:20) - BC₂(11:35-12:20) - 林道 c880?(13:00) - 林道・654 分岐 (13:40)

長靴にて出発。硬いので早い。小屋にて休憩し、・1716 コルへブッシュを踏み潰しながらいく。コルにザックをデポし、スキーとブーツを担いで長靴でいく。帰りにみんなの長靴を入れるため、SL には空のザックも持たせる。雪はぜんぜんなく夏道沿いに登る。肩まで上がると十勝岳のほうがよく見える。肩からは細く岩々していていやらしい。長靴でよかった。ピーク直前の平らなところにスキーを置いて空身でピークへ。360 度のパノラマ、ピークとしてはオプタテよりこっちのほうがよい。これまでは快晴だが若干、霞みがかっていたのだが、今日ははっきり見える。

そして美瑛の北面を滑る。スキーをデポったところからツボで少し降りながらトラバり、雪のあるところまでいく。ここは上部は岩がでていところがありエクストリームチック。斜度はたいしたことない。雪質が悪くかなり戦うスキー。で「ファイター」と名づける (SL 案)。下のほうは普通の広い斜面。一番下にはでかい段差がある。段差の下を通過してコルへ戻り、今度は美瑛富士へ。・1888 ではなく境界線の曲がる所にピークのボッコがあった。こちら c1888。ピークにて部歌をうたい、個装で北東を滑りテン場へ戻り、撤収。テン場からは適当にトラバっていき、でかい沢を確認して降りだしたが、地図読みを少々ミスったようで、変なところで林道にぶち当たった。やはり上のほうまで除雪が入っており、かなりイマイチ。林道の脇の密林の中を滑っていくはめになった。

で、帰りは「田」と吹上露天へ。大杉はやはりすごかった。

(反省・感想) 大杉

- × マンドリン失敗
- 結構コンパクトだった。
- 「田」はやっぱりステキだ。

三浦 - なかなかスキーが上達しているようですね。

山口 - 胃袋すごい！

杉田 - 消化しろ！

三浦

- × なし
- オブタテはなかなかどこでも滑れていい。
- 実は突撃でいくような木のあるスロープのほうが面白い。
- 小回りができると大回りより楽しい気がする。

大杉 - もっと食べ、オラ！！

山口 - 口ごたえするな！

杉田 - うまくなってるけどまだまだだな。

山口

- × なし
- 山行の面白さは天気に比例する。
- やっぱり十勝は素晴らしい。
- 今まで山スキー部でやってきた甲斐があった。

大杉 - もっと食べ、オラオラ！！

三浦 - 渡渉で直滑ったのはマジかと思った。

杉田 - シュラフの中で女にメールを送るな！

杉田

- × こけて顔をすりむく。
- 天気に恵まれ、かなり充実してた。
- 山スキー部員ならオブタテは一度はいくべきだ。
- 戦うスキーが以外に面白かった。

大杉 - たくましかった。

三浦 - 思慮深くていいリーダーだと思います。

山口 - スキーうまいっすね、ビビりました。